

大和市障害者自立支援協議会 第2回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター

日 時： 平成21年9月14日 17:00～19:30

出席者： 下記参照

出席者：定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

宇山秀一（県央療育センター）、成澤一之（ワークステーション菜の花）、佐野文彦（あゆみの家）
村元良悦（大和市社会福祉協議会）、山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、
鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会（視覚））、春日恵美子（大和市手をつなぐ育成会）、
田村桂子（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））
辻田淳子（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、星野宗吾（自立支援センター）
村尾朗（サポートセンター花音）、目黒裕（松風園）、関水貴浩（福田の里）
阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、澤田真理子（大和保健福祉事務所保健予防課）
菊地原広憲（大和市健康福祉部障がい福祉課）

事務局

佐藤倫孝、三瓶悦子（自立支援センター）、山田兼右（松風園）、
五十嵐衛（サポートセンター・花音）、
柏木裕幸、進藤隆、笹岡整、民實健二（大和市健康福祉部障がい福祉課）

欠席者： 高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※

大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※

田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※

注）※オブザーバー出席者

関水覚（福田の里・事務局）

配布資料： 1、相談支援事業実績報告

2、相談事例報告書

3、専門部会活動報告（児童・就労・精神・身障）

4、障がい者福祉計画骨子案について

内 容：

・会長挨拶（星野委員）

〔 議 題 〕

1、事務連絡

・9月から県央療育センターの施設長が西原毅氏から宇山秀一氏に変更。今後は宇山秀一氏が委員として出席。

2、相談支援事業 活動報告

(1) 実績報告

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・相談の件数は大きく変化ない。相談支援の時間数は、増えており、特に知的障がいの方からの相談が増加している。今年度からは各事業所それぞれに分かれて地域での相談として強化して相談を受けている。今年度からは訪問相談が増加している。
- ・相談内容については、昨年度後半から、就労に関する相談が増加している。

【質疑応答】

- ・就労に関する相談について、簡単に説明して欲しい（委員）。
 - 元々職場で様々な課題は生じていたが、今までは企業が頑張って下さっていたが、経済状況が悪化する中、企業も支えていく事が困難になり、離職となっている。長く企業で就労されていた方が多く、急に解雇という形ではなく、ある程度の時間的猶予を頂き、その期間で相談支援を行っている。なるべく離職後の在宅生活が短くて済む様に、再就職や生き甲斐に繋がる活動の調整を行っている。企業側も最大限の理解と努力をして下さっている。相談支援に費やす時間は多くなっている（事務局）。
- ・身体障がい者に対する相談はどうなっているか。前回の定例会でそれらの相談を増やしていく努力を行うとの事であったが、その後どうなっているか（委員）。
 - 傾向について分析をしたが、極端な特徴が無いのが特徴ではないか。まだ分析のみで相談を増加させる方法についてはまだ見い出せていない。傾向としてあるのが、施設入所していた方が地域に移行する際にその方のサポートに関する個別支援会議に費やす時間がとても長くなっている。その様な方への支援が多く、広く一般の方々にご利用頂いてはしないと分析している。今後、対応策を検討したい（事務局）。
- ・4月～7月までの身体障がいをお持ちの方からの相談件数の内訳について：肢体不自由（206件）、視覚障がい（10件）、聴覚障がい（51件）、内部障がい（27件）、その他（6件）※合計300件（事務局）。
- ・特に視覚障がい者にとって、大和自立支援センターの認知度は高くないと思うが、視覚障がいからの相談は、どこで相談を受けたのか（委員）。
 - 自立支援センターでは視覚障がいの方から就労についての相談を受けているが、その他の詳細は分からない。件数は延べ件数であり、実件数は5件（事務局）。

(2) 事例報告（事例を通した課題提起）

①「身体障がいの方の、地域移行に向けたサービス利用計画の作成と家族支援」

②アスペルガー症候群の方の「当事者同士で話を出来る場が欲しい」というニーズへの対応について

- ・資料に基づき、事務局より報告。（詳細については、個人情報保護の観点より省略）

3、専門部会活動報告

①児童部会：資料に基づき、事務局より報告。（質疑応答なし）

②就労部会：資料に基づき、事務局より報告。（質疑応答なし）

③精神部会：資料に基づき、事務局より報告。

→どこにも通う事ができない方や利用が出来ない方が沢山いる中で、憩いの場等が必要である。お金をかけない方法もあるのでは。議論を重ねるだけでなく、具体的に検討を進めてもらいたい（委員）。

→作業所等に行けない方への訪問支援等をしてもらいたい（委員）。

→なんでも相談やコンパス、大和市の自殺対策等で取り組んでいけるのでは（委員）。

→「ひきこもり」に対する支援や対策等も精神部会で検討できれば良いのでは（委員）

④身体障害部会：資料に基づき、事務局より報告。(質疑応答なし)

4、大和市障がい者福祉計画骨子案について

- ・障福課より資料を基に要約して説明。

【質疑応答】

- ・方向性が見えにくいと思うが(委員)。

→6年計画になるので、大きな視点で施策の展開を考えていく。その中で、障がい者福祉計画は施策の方向性を見ていくものである。大きな方向性になる。計画の評価は別途考えていきたい(障福課)。

- ・ヒアリングの効果はどのくらいあるのか。莫大な税金を費やしている(委員)。

・様々な課題や施策等について「検討する」との事なので、こちらから要望を出していきたいと考えている(委員)。

・計画に当たり、ヒアリングやアンケートやその他から、色々な課題を確認した。極端に絞る事はしていない。なるべく多く皆さんの意見を反映させてもらった。勿論全て事業としてできる訳ではないが、これだけの課題があるという事で広く表現した(委員)。

→実際に解決できる方向付けをして欲しい(委員)。

→解決は行政だけではなく、協議会・事業所・地域等との連携や協力が必要。県の事業との関連もあるので、協力を受けながら進めていきたい(委員)。

以上